KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

特
リ5
5344

リ5
5344

錦雜綴序

數珠の袱は腹を纏ふて裘となし、其價千金あるも、以て寒を防ぎ、窓屑は集めて精衾を作る。貫錢數百よりなるも、淺くして白袱の裘よりは、ざるべし。いとゞ知れるものあるべし。能く出来て設よりぬかるゝ如くなるもあり。ひゝ辣の猴玉より不業なるもあり。爾上が雜綴の底なるもあるべし。四文乃平增之文の筆に、ふ綑上ふ拙ざるも

岡山家藏
青山堂

調法なる琢磨より巧みなる技
夜光の珠の冷ふかし。審なるが手細工なり。
首肉巖園の彼ふるるまい美ぶ。上手も
堀技の新工夫より高升の鼻をひしゃげ。
竜吐ふる竹筒の水鉄より我慢の角を
折ぬべし。加賀蒔絵屋の蒔絵の
見事なるもの。
沙羅より味よしとなるべし。同日の
細工なる庫なるべし。上手技者のこなれる。
江戸屋なる嘉平

無造作なるうき目覚業なるさまを
書を論ずるなり此頃より涙をくぶる
歯しなるとき夜は眼もなるべし考へも
やんやとなるべし新作なるこなるものぬ
出物なるおかしのあるなの黒素なる
此書のなるべし撰ぶべし骨もをくるかなる
面なるへんなりなる乳粉ぐるなく
酒屋ぶくる手猫ぐるく画譜なる角皇。
何なるなるなるなるなる天世話を和也

[illegible]夷[illegible]見[illegible]羊羹
饅[illegible]甘藷如蔔所の[illegible]を[illegible]
思[illegible]ぬ[illegible]。濃ふハまて[illegible]乃
雪[illegible]お題を乞[illegible]指[illegible]
者[illegible]曰ハ[illegible]ふ[illegible]如を
[illegible]食[illegible]作者[illegible]声[illegible]第[illegible]
腹を立。[illegible]切角胃を[illegible]
[illegible]第ふ[illegible]家ふ
蔗を玉[illegible]十[illegible]義[illegible]。

[illegible]作者乃心[illegible]あいぐれ錦を[illegible]
ん意氣[illegible]。一部自慢乃顔色ふ[illegible]ば。別
寸[illegible]ば。[illegible]満悦の
[illegible]。俗来うも書を視[illegible]。
[illegible]編を[illegible]る[illegible]ば。[illegible]の肉[illegible]
達者[illegible]。

乱来亭主人

武藤八

寸錦雜綴目錄

勸進能番組
東都地圖
元錄暦
吉風手印
揚屋請帖
娼妓封傳
高尾緘印
常磐津宗盃
孌童券
横綱免許
落語
俳優交承
大門公驗
寶永程史子
嗽石香報條
游行女画帳
戯子券
排戯書帖
小女百人一首
意休怠狀
紀文劍鞘
可溜甕器
舞妓院本
和考寫眞
杜国翁圖
衣手冊子
高尾上蓋衣
堀部氏笄
翁甎米櫃

於江戸勧進観世太夫勧進能興行

初日

観世織部　高砂　福王義太郎　金春吉左衛門　宝生新之丞
観世八十八　清基会流

東廣うま　謡仁左衛門

日吉猪右衛門　田村　福王義太郎　梅若孫七　貞光小八郎
中林七左衛門

一寸

吟吉之丞

観世左之丞　江口　春藤源七　金春三郎左衛門　一噌又七
観世新九郎

大蔵源之丞

入間川　大蔵源之郎

林清之進　芦刈　進藤常之助　福王清左衛門
吉田伊左衛門　吉本多八吉

節分　謡仁左衛門

観世左之丞　船弁慶　春藤左衛門　宝生新之丞　観世左吉
観世榎九郎　貞光小八郎

来市　大蔵源之丞

脇 井清右衛門
土蜘
高安太郎
梅若孫七 観世権八郎
中西十四郎 清甚太夫
弥石文次郎
祝言
金札
進藤萬
福生清兵衛 宝生新太郎
平沢文右衛門 喜多又吉

享保[redacted]大江橘乃北すぎて橋の保ちて其家
しく勧進能興行をとしもふるの書すぐる也

役者寺子共之人数之事

一 能之役者五人ニ附テ脇役ハ二人又ハ三人有之
其外ニ太鼓笛小鼓大鼓ノ囃子方四人宛
謡ハ役者方ヘ役者之寺子共之役ニ遣シ
其外ハ地謡六人又ハ八人也
何レモ役者中間ニテ寄合之申分之事
一 [redacted]
御法度之宗門之儀ハ宗旨之寺請之事
大工職之者之儀諸事入用之儀

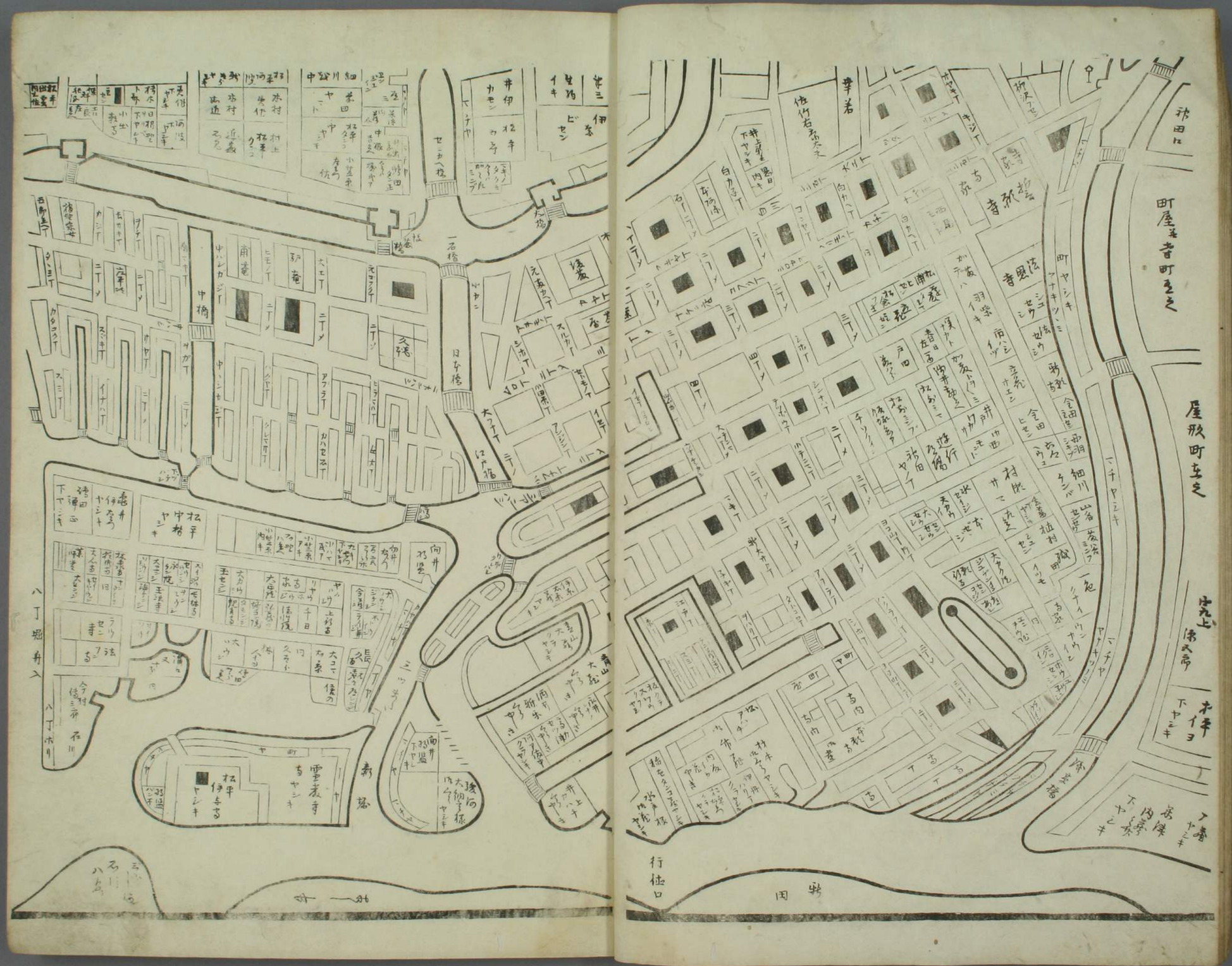
若し一座以外之儀御座候ハヽ此八百松儀被極
御手当江戸遣り御勤可被成候一分相定候外之旁ニ而宜敷
取候分何國何方ニ而茂川ニ而茂御出張被成候此度之者人体と上ヶ
此方之内ニ而廣壱両ニ而給金相渡し候ニ付相定置候上ハ
一言之申分無御座候若シ付出入給銀ニ出来候ハヽ何方
方ニ而成共屹度相済此度之儀加判之者罷出急度埒明ヶ
後日之為證文仍如件

安永六丁酉歳
二月十九日

東都木挽町近江屋茂兵衛店
請方 三保木秀治郎
江戸堺町 □□□□店
請人 柏屋蔵之助

親人 八兵衛
まさ 百松
江戸屋 新七度

孌童券(カゲマウケジヤウ)は同盟(トモドチ)松隣子まとめ来あらかしめ
ろおもしろきや
俳優券(ヤクシヤウケジヤウ)とあるも此まゝ写しとゞけぬ
手付證文のことくしかるへきあらず


町屋
屋形町
行徒口
八丁堀
中橋
一石橋
日本橋
新橋
青山
雲龍寺
松平伊与守
向井
佐竹右京大夫
井伊
細川
中川
本村
村上
小笠原
長谷川
大久保
酒井
石川
今村
佐野
大御子様
井上
内藤
伊奈
伊東
大名小路
八丁堀弁入

寛政改元仲春端午得諸西村氏寫焉

紫寛永年間刊行之者也乎

此地圖を予大人

文庫あらしめ

こゝにきよとゝろ大會場にあらしめ紫ハ

あゝびまゝ棲きゝゝ美濃國四牧續よゝゝ西

半藏御門を限南ハ佛光神明町にのぎりゝ

今此まゝあゝゝ地東よりあゝゝ

元錄十五年

壬午略曆

十月大　建　癸丑　婁宿　輸水よう

廿九	ひのね	とら	ゑ																												
一	ひのね	とら	ゑ	土	とのうさの四刻入ふく日本ごりには																										
二	ひのうし	とつのそく	ろ		大ゑもう　ゆく日																										
三	ひのうし	とつのそく	ろ		げんゆくはさもの　地火																										
四	ひのうし	とつのそく	ろ																												
五	ひのうし	とつのそく	ゑ	金	六ゆん十二月中さうの一刻ちう日のうちは																										
六	ひのうし	とつのそく	ゑ																												
七	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
八	ひのとう	とつのそく	ゑ	木	大ゑもう　ゆく日																										
九	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
十	ひのとう	とつのそく	ゑ		十方ゑれに入ゑもうしらひあのきよう																										
十一	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
十二	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
十三	ひのとう	とつのそく	ゑ	土	五む日めつゑん																										
十四	ひのとう	とつのそく	ゑ		大ゑもうちう日正月とうめよ																										
十五	ひのとう	とつのそく	ゑ		くゑ日ゆく月ちうこそ																										
十六	ひのとう	とつのそく	ゑ	火																											
十七	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
十八	ひのとう	とつのそく	ゑ		ゆゑのとうけゑくすそうひの																										
十九	ひのとう	とつのそく	ゑ	木	弟の　ものいちの																										
廿	ひのとう	とつのそく	ゑ		大ゑもう日正月とそ　地火																										
廿一	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
廿二	ひのとう	とつのそく	ゑ	水	天王ちう日正月とそ　ゆゑの																										
廿三	ひのとう	とつのそく	ゑ		すそうひつめとうゆう																										
廿四	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
廿五	ひのとう	とつのそく	ゑ	金	ぜうふん　大ゑもうこうゆう																										
廿六	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
廿七	ひのとう	とつのそく	ゑ																												
廿八	ひのとう	とつのそく	ゑ	土	立春正月ぜうの六刻入神の																										

元禄十四辛巳年　美濃国定帳　氣着

廿一	火	
廿二	木	弥ゝ十月十日ゟ
廿三	木	弥ゝ天保正月ゟ
廿四	土	弥ゝ五月日ゟ
廿五	土	
廿六	金	弥ゝ日ゟ
廿七	金	弥ゝけんゐくすぐ
廿八	火	弥ゝ
廿九	火	弥ゝ

こゝ〳〵十二月十四日八赤穂の義士亡骸の例討ち〳〵
四月ゟ〳〵此月を摸写ス

免許

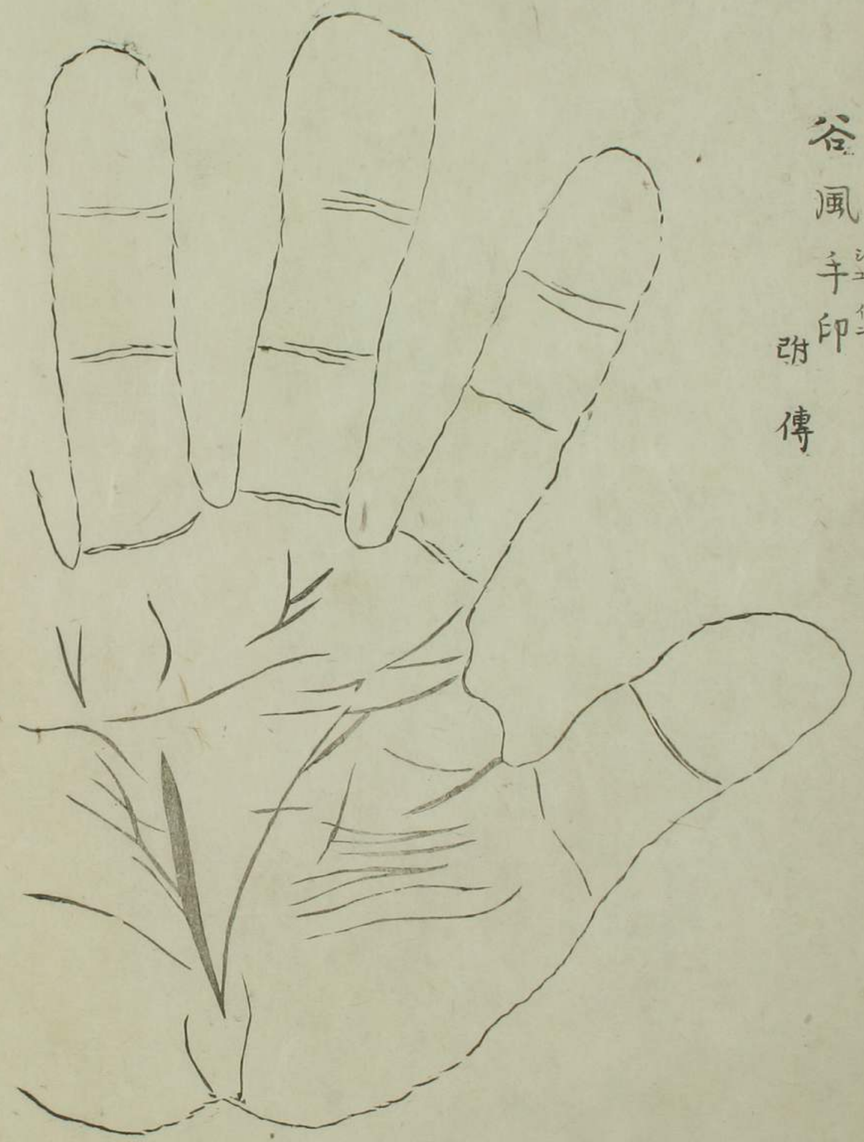
一　横綱ゝ事

右者谷風梶ゝ脇依相撲ゝ座今按與平次来
庁屋入ゝ前近相用ゝ申仍如件

寛政元酉年十一月十九日

本朝相撲ゝ司行事
吉田追風　判

谷風手印（シュイン）附傳



谷風梶之助源守胤（幼名）又ハ源吉ト云ヒテ農業の士ナリ
母ハ某女寛延三庚午年八月八日奥州宮城郡霞目村ニ
生レ十九歳ニシテ初テ秀ノ山ト名告テ後達ノ關ト
改メ二十七歳ノ時谷風ト改メ名ヲ梶之助ト称ス雄名四海ヲ
輿ス惜ヒ〳〵寛政七乙卯正月九日齢四十六歳ニシテ
黄泉ニ赴キ空ク法名釋姓谷雲了風仙府東漸寺ニ葬
妻ハ仙府東漸精舍ノ碑銘ニ詳ラカニシル

落語

南越国（ナンエツ）ゝ象の酒ゝ時落語（ラクゴ）を作ゝひゝつゝ冊子ゝ表題（ヒヤウダイ）を東文字ゝ書象酒ゝかゝむゝとゝ

享保十五庚戌正月吉日　通橋町　奥村屋周板

揚屋請帖

青よゝゝゝ揚屋あゝゝゝゝゝ娼家（チヨウヤ）へ大夫ゝゝゝ

きゝゝゝ河の公騎（キツテ）ゝゝゝ

四言左衛ゝゝゝ三浦屋ゝゝ清十郎ゝ屋張屋ゝ

ゝゝ揚屋ゝゝ

新俳優附け
辰霜月朔日
木挽町

早川勿瀬
門中亀之助
狂言出村名矢
津川半左文
生駒大吉
中村七三郎

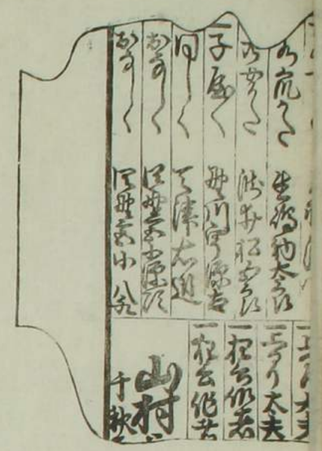
家祖ハ岡村長吉衛と云寛子あり〳〵〳〵淀ヶ七十歳ゟ
寿子〳〵〳〵ニ代目村ヲ長ヲ為ト云ヘ山村長を為ト云
是〳〵男子あり〳〵〳〵小女(ムスメ)系ヶ婿(ムコ)〳〵〳〵ヲ継ム是ヲ

戯(ヒ)墨(ハイ)彩(ヒ)筆(ツ)

辰霜月トアルハ元録十三年庚辰ヶ
按ニ二代目長を為ト云ヘ剛ナルカ

娼妓(ケイ)封傳(ヒヤウ)

大門(ヒロ)公驗(ケン)



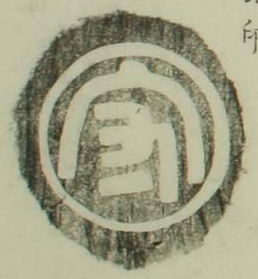
大サ如圖

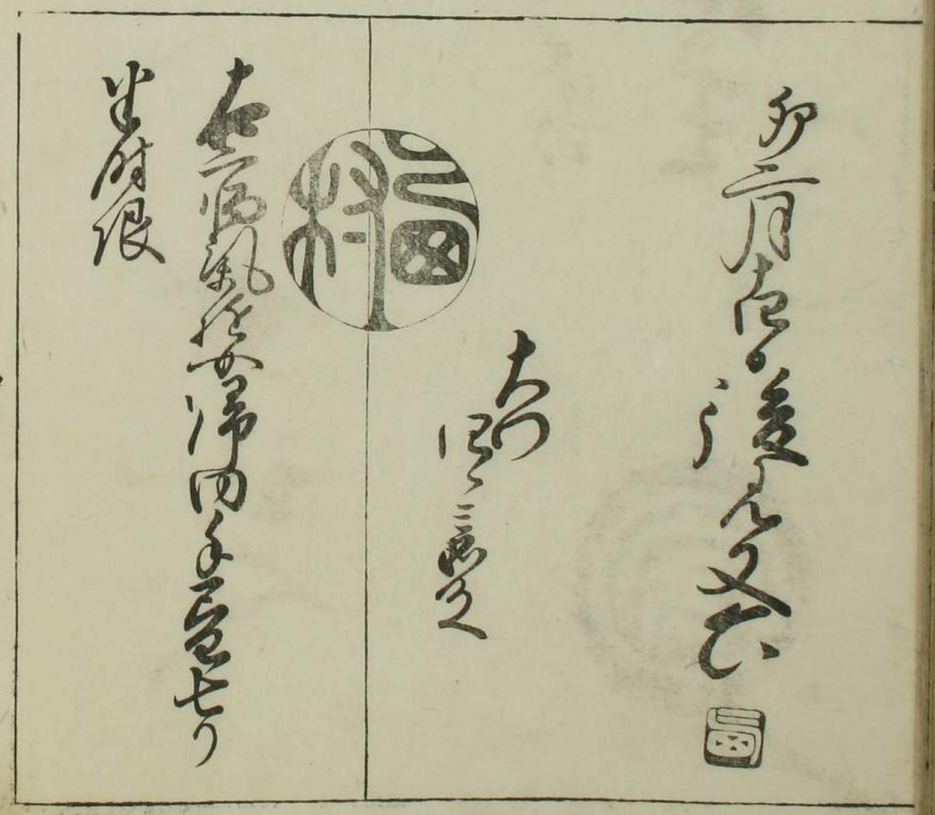
木札ノ厚サ

二

此トコロ焼印アリ

焼印





才色ゝ廓中の游男いつかゝもるゝ時此御引ふくゝゝ
出ふこゝ難うおゝゝ
其ほか婦人ハ皆本社の門籍に用ゆ

三浦高尾織印

寶永程史子

寶永のむゝゝ嬰児おちゝゝあろひもろゝゝゝ冊子
あゝゝ其こうゝ人比立左ゝいひゝゝ程史も此類ひろ

常磐津宗圖（ケイヅ）

浄瑠璃師範

御松の内慶とも本ま播十八公能新年氣絲ぬ至那き
古今ほう色ならん今お恭好宮の御狩お清て位よ松叢大雨
頻と降りは帝雨と濃き世と小まり川の流よき智も所や

浄瑠璃太夫祖
岡本文弥事 伊藤出羽掾 一流
二代目 岡本文彌 一流
三代目 都萬太夫事 都越後掾 一流

大坂 山本河内掾
山本飛騨掾
京角太夫事 山本土佐掾
奈良 林平太夫
大坂阿波太夫事 岡本鳴渡大夫
大坂 表具又四郎
伊勢世本市太夫事 木屋七太夫
京 岸本平太夫

四代目 須賀千ト事 都太夫一中 一流
四代目 菅野傳弥事 松元治太夫 一流
五代目 都半中事 宮古路豊後掾 一流
六代目 常盤津文字太夫 一流
七代目 東太夫事 常盤津文字太夫 一流

都今一中
都秀太夫千中
子 松元半太夫
京 林若太夫
京 菅野宇太夫

常盤津文字[redacted]といふ妓（ケイシヤ）めの中よりもかしこくいふてよ
太夫よりも出きしこの姓文字お名をおしろくさき
尺長の紙よ摺て是を旨（アタ）ふる此妓のゆかり縁ある

とうり はみがき 嗽石香（そうせきかう） しんさえろくに 中あしき 匂ひをさる

二十袋入 壱包代七十二文 つめかへ代十八文

口上

トウサイく 柿紅伝承候八方も八棟作りにて方
よ四面共絵を表へと表立る甲斐もなく段く
共不仕合商共換おつぎ渋団扇にあふがされて
らも皆と、へと先へも出あかり相承去陰方より何
ぞよく手がけぬ商売おもひ付やうにと陰引立
にも下々もみがき共候今時共皆様ハ能店なな
又ハかくちハ野夫共なやそ定をまあ形なれバ防
州砂に匂ひを入く共おもひ付にて名を嗽石
香とはく元来下直共ふて法度へ共手売袋
と折の板紙をすりとの伝のをのにて手あ代引い

依て此度第入に仕世上共袋入共目方二十袋を一箱
に入御つかひ勝手よろしく袋が添ちか楊枝がよごれぬ
とかやうな心ち濡のる共ども之れ仕かさでせしめる
積りてかたへの利を下直に売上申上む共
共候私ハ文盲無才にてなんでもふれる
見ても去陰方より陰恵にて第一に歯を
志よくし口中をさハやかにあまり臭をさり熱
をさまし其外あまくさつき富士共山ほど功能
あらく此の共すにも伝へまし恵きうぬのあど
私ハ家中にて一向ありやしへ共てるが歯をみがくが
弁んにて外れも功能ハきくとも害もなくほます侍
へられさき人を花でも廉でもなく人もよかしや嘉しくハ
あるまいと存教へ通共待さ見み侍る念入調合
仕あのやうな袋が不しさ共て何共売出し御つかひ共様
て第一ふ宜てげだいな御すやかに拝ても言る共
まさる法換私才ハ無きつまりく山と重にく大よろに
お多以一度功もて法ふ共もても御贔屓の申上升

夢雲

平賀先生作　名国倫字士彝号鳴渓　狂名風来山人市天笠老人ゴ

是ゲ報源ヨ觸ルベシ　母ハ昭和六年夏ヨリ

娼妓畫帖　初丁ヨリ跋

もうけたくはなきまゝ法さだめ八　能八法評判仕拵下
ゑで皆様に見物願ひ上ル　繁昌仕表店へ
孝出金着板ゑ　雛優ゑ昔依て法ゑ丸ゑ
隅〳〵まで法〳〵アリと　幸希上ル
共清ゑ様小ク八千くゝゝ

丑　正月日　川合助元無

土間弘所　ゑびすや兵助

出店八勿論ゑ法ゑ世夢ゑ一切出ふ

言尾

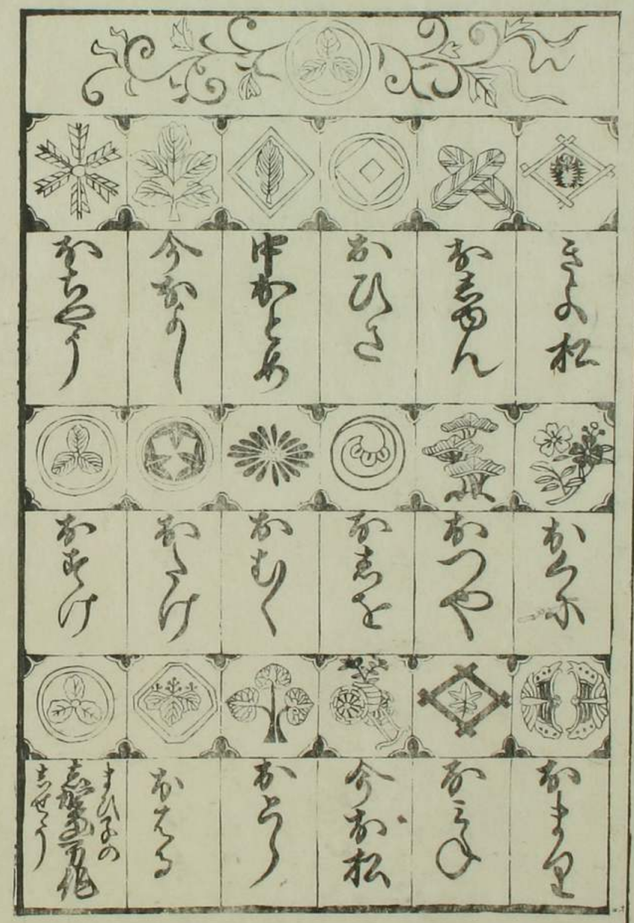
元禄十三歳辰四月吉日

和書畫工
鳥居庄兵衛
清信畫

和家町板木屋
七郎兵衛板

此ごろ名きゝふあろびどもぞ冊子(サウシ)とあせて
其中よりも二君ハ人ろ知るとゝ為あれハ模写(モシヤ)久
畫工鳥居清信と清長師清満ろ祖父なり

志賀山舞妓院本



新作武田物語右手

一上みだれかしらの町もそこ忘れのやちぐ忘て
よのんよりかも花のうのさ海れさてそうな
乃うのさ海れまにつ
一上いのりの事ぐ忘れ
出たわらの花も花を忘れ風とのさてそうさ
をうまうしあぐむ
一上花ちらせ山それ忘れ花くれ忘れ
ありのうらけの名ぐ中よもつ
一上そうのさ忘へばそうそうすのべものひうるまま

志賀山萬作ハ元錄ノ比ノ舞妓ノ師ナリ天明五乙巳中村仲藏
中山小十郎ト改名シ志賀山一流ノ三番叟ヲツトム其子方ノ師中村仲藏改同六丙午
小十良仲藏ト替名ス子仲藏小十良ト名告今ニ志賀山一流ヲ立ル

戯子券（ヤクシヤウケジヤウ）

請状之事

一 私弟[illegible]与申者当未十一月朔日ゟ来申十月晦日迄
役者ニ年季相定御抱被成候実正也給金指三百目ニ相定
此内只今[illegible]二百目慥ニ請取申候
九[illegible]残[illegible]
[illegible]
[illegible]

仕芸之儀相勤申義難成候ハヽ右[illegible]
此上ニ而御法度之義ハ不及申東大坂芸[illegible]
役者之掟何ニ而も手前ゟ[illegible]構下被成候付一言之
義申間敷候宗旨ハ日蓮宗[illegible]
御法度之[illegible]若違[illegible]
請人罷出埒明可申候為後日請状仍如件

元禄十六年未十月

[illegible]

大坂町[illegible]殿

勝川春章

一名手付證文とゝふ此小事沢山作ありしかも

いひ〳〵和尚の弟子ふかもといふ人あり

嵐和考寫（ニカホ）

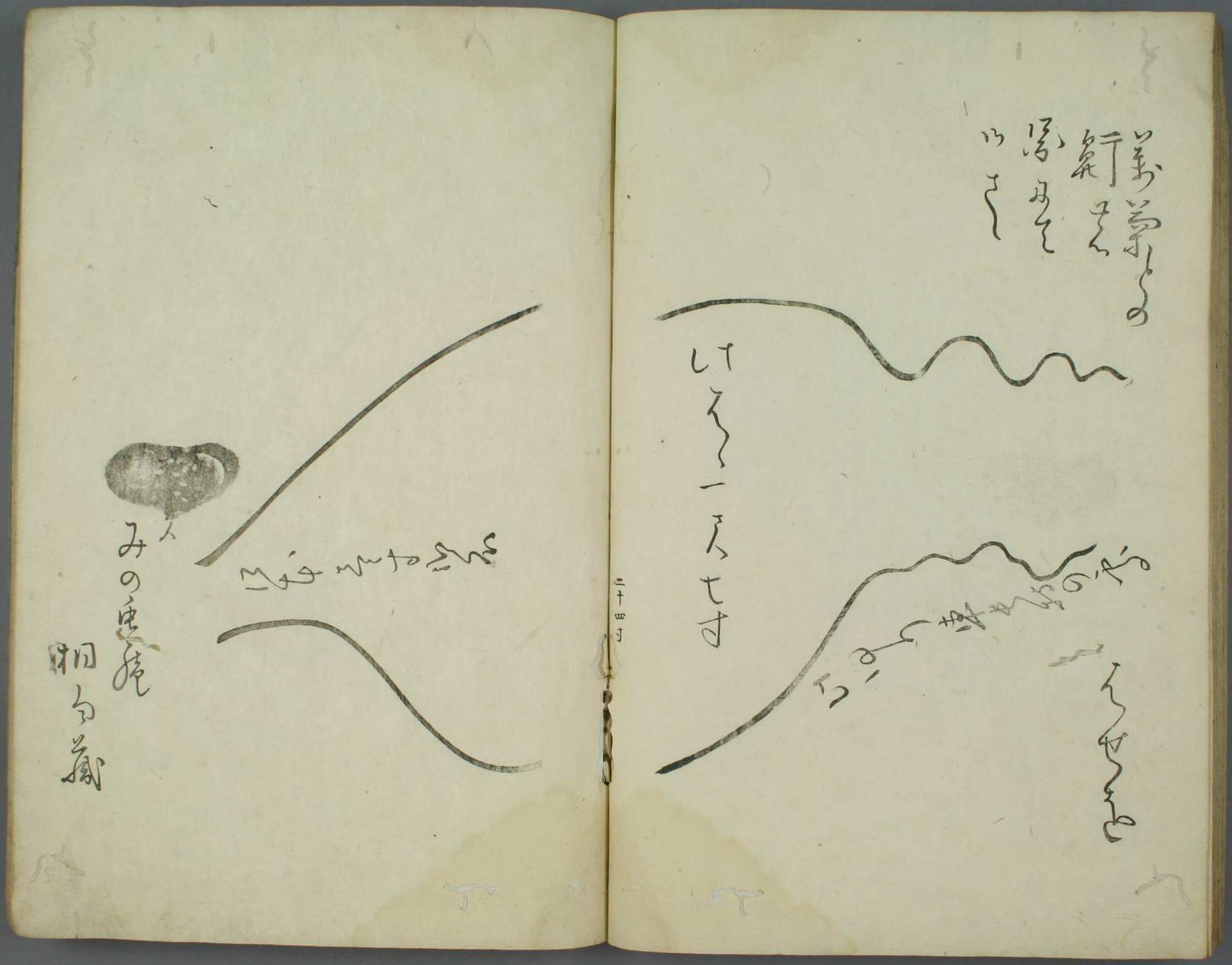
並ニ勝川春章ヲ壺ト云話

此五人男の画ハ世ヨ隆ぶ俳優（ヤクシヤ）美男（ニカホ）にて人形町林氏七歩とゝへぶるもの也ところ勝川春章うゝ画をかけて名をゝあり寓居（グウキヨ）しゝはじめて草紙をよゝあゝ〳〵とあり是ハ林氏の仕切り絵なり是より人名を改て壺と異名をとる

嵐音八和考うゝ仮諢（ダウケ）語の名人あるとゝ

享保四年市村座
顔見世排戯画帖

此比團蔵柏延ト確執ニオヨンデ ■ 紋ノ三ツスヲ濁コロニヤ
一文字ヲ點ス後和合一字太平記トイフ顔見世ニ柏延ト
同吐シテ一文字ヲトリモトノ三升ニナリタリト老人ノ物語ナリ


みの虫庵
相白義

鼾(イビキ)之圖

翁のかける鼾の圖ハ蓑笠庵(サリウアン)の家藏なるよし 其圖をここに
やゝあらためて書うつせし 此蓑虫菴といふハ伊賀上野に有
蓑虫ハ芭蕉翁の門人にて草の庵をむすびし
此句ハ時として土芳といへる人のいへる也
亦蓑虫庵ハ杜國(トコク)のいひし庵なり 階(カイ)ニ登る翁ひとしく
吉野へ行きし時の供をなせし 此杜國ハ翁の側(ソバ)
近くつかへける 鼾(イビキ)のおかしみあるにたはむれてかく 翁も
ねむりをさまたげられし夜ありけん これにより杜國が
鼾の圖をかきて蓑虫庵にのこしおきしとかや 今其
よき人の家にある也

明和六己丑大江都に名高き妓 或ハ茶(チヤ)店の
小女(ムスメ)を集めて見立三十六歌仙として
しるしあつめきしものなり

[illegible]

和專書

[illegible]

玉菊追善

[illegible]

竹婦人述

享保十三戊申七月八玉菊 抱万字屋遊女一周忌ナリトテ中之町ニ始テ
燈籠ヲ出ス十寸見蘭渓此集ヲ作ル行婦人水調子ノ
淨瑠理ヲツヾル

縦紙之事

一 紙本町ニ而前ニ而請候ニ付色ニ付
旅商人ハ済ミ候ニ付一きり前ニ而出し候を
よせ置候ハ・つきさし候をめさせ大切ニ
切ニ而し候町仲間合点有

にて相尋候上ニ而申度候
御伝ニ而御免被成候得共

右之通ハ当ニ而今度ニ而引合之
ものニ而御座候ハ・仲間評議之上
寛政三年
巳ノ三月十日
年番
当番 五郎兵衛
行事 同
同 又兵衛

道安殿

意休怠状

世を言休しるふ山ハ重なるうるし性ハ深見氏表紙

自休しるふ

名月や来しるしるえよりひるんいきて

是ハ自休ゝ自讃ゝ自あるゝ物ゝ敵をわ

あけしるふ人ふ水秋

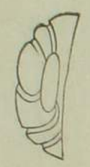
小田原町長ゝあるゝ飴棒しるびー任侠あるゝ

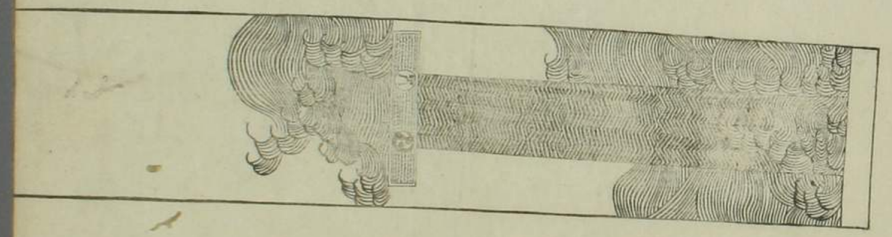
道男しるあるハ男なるゝ 娼家三浦屋 剃髪ーきるふきゝ

名ゝふるゝや ふ大所しハ墨所の出塗ゝ

高尾上蓋衣 並ニ雛形

紋文劍鞘





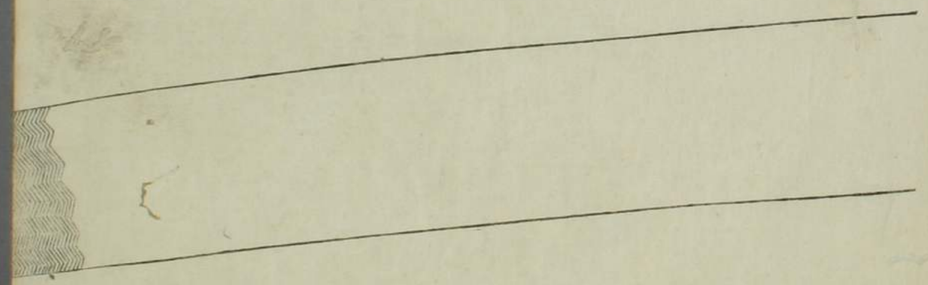
地加賀絹

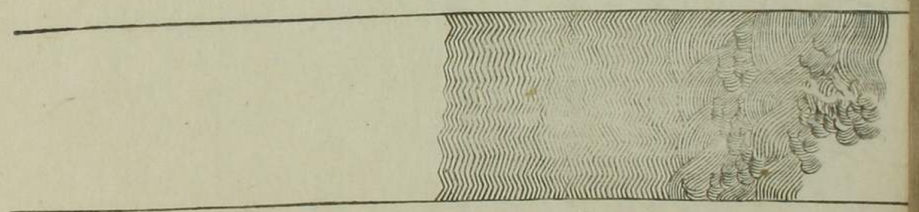
鳳凰深ハ三浦屋乃ハ特色あり

丈四尺三寸 巾一尺六寸三分 袖一尺 三分

身幅 ほ 三寸ハ分 わ〳〵 四寸 竹 四尺一寸

地蒼天色

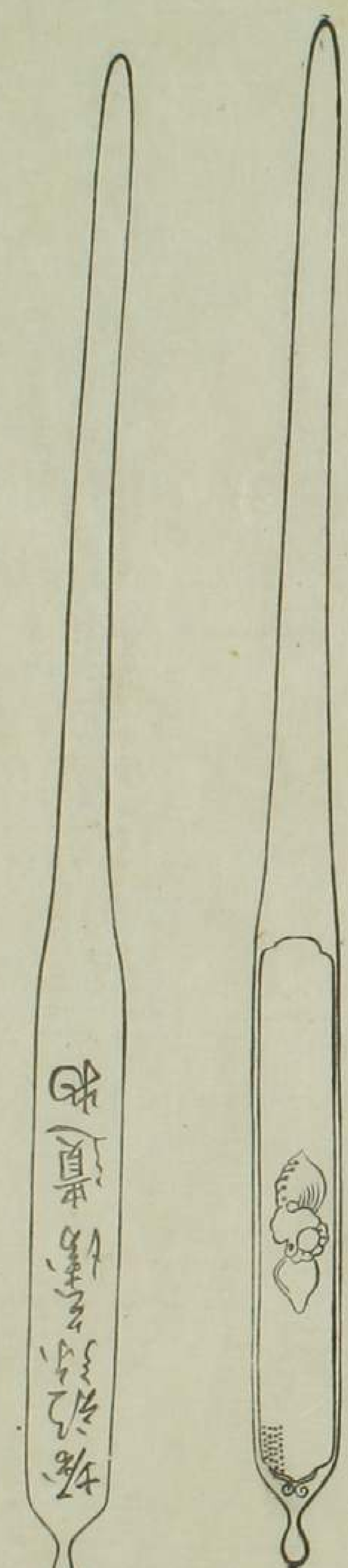




紀伊国屋文左衛門といひし昔の鉅富乃きこえある剣の
鞘なりしを寸法にて出図

世ニ紋兵衛の小脇指といひしハ是なるよし
髹漆師ハ青海勘七とて青海波に妙ある者に
名とる惣躰刷毛目にて見るにめでたき鞘なり

堀部氏笄

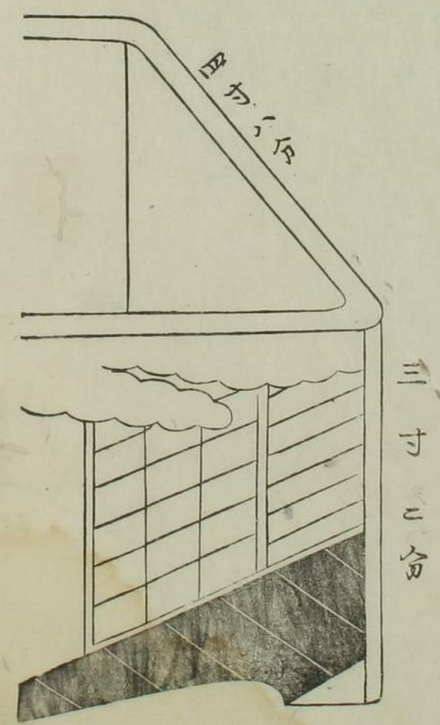


堀部氏より遺物としゝ細井家にわたせし品 細井次良太夫廣澤知慎
堀部弥兵衛遺物乃七字ハ廣澤先生の書なりとぞ

可漏斗器

一名 大明懸貪

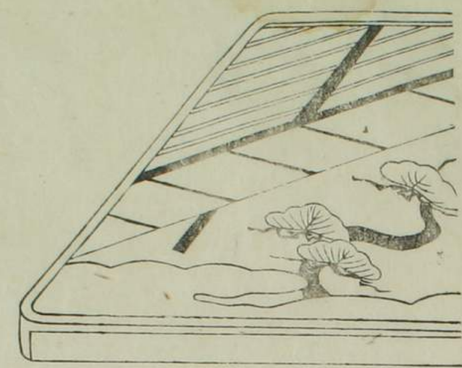
今ハふき可漏斗ニハ拵ふ
ゟ〳〵
此管ノ中ゟ篠〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵の漏斗ノ
力ふ〳〵あて
密〳〵ゟ灰ゟ筋ゟさ〳〵ひゟ
れゟ一鉞用ゟゆふゟ〳〵



四方加圓

描金アリ

内朱塗



芭蕉翁米櫃
柏莚所持
五粒ニ傳ヘ今又三件ニ
壬辰六月下旬

所翁ノ手アカ付キアリ

瓢ノ裏此所有リ
鉄ヲ黒ノ又リタリ

傳
懇望ノ一見寫之

字ハ 朱ウルシ
黒ウルシ

壹泰山 自笑祢

八角陽山 這中餘

芍餅恵士素堂

箕山

鮫山

書

判

素堂ノ横
一寸五分程有リ
高サ此通

和漢の風俗今に於て庵を
結んで蹠飯を食ひ。四方に流れの
水を飲む。時々に肱枕
曲て枕とし。終夜篝火を炊て
業に勤む。書の法ぶ事
全く一芸にあらぬ。ただ茶
湯の生涯の一事にふ拾集め
為事に作者。燈台を点ずと。
茶の道は細工を除く
料理は庖丁。献立は工を巧む
少しも出来る事。志の深
ず浅き一物も等閑に
雑卵と等し。

清(スメ)る事(コト)を昇(ノボリ)て吸物。事(コト)所の
朝の眼(マナコ)を。月雪花の三ツ道具
を。味(アジハ)ひの中に肴と成(ナス)。濁(ニゴル)い
下り酒(シヤウ)沸(ワカ)せの美(アツモノ)。取(トリ)肴(サカナ)の取(トリ)所(ドコロ)を
用(モチ)ゆ。豈(アニ)乖(キン)焉(カウ)も恐(オソ)さんや。吸(スヒ)はの
白(シラ)ぬ事(コト)を。ちらす。扨(サテ)も物(モノ)さま

事(コト)なる味(アジハ)ひ二(ニ)合(カウ)半(ハン)取(トリ)入(イレ)て。
去(サル)ての酒(サケ)を。ちらす。盃(カタツ)を頂(ヒ)け
嬉(ウレ)しく酔(ヱヒ)て。まかと。耳(ミミ)を取(トル)事(コト)を
かく。咳(セキ)拂(ハラヒ)をしてそ
燭(ショク)の竹子(ちく)緑青(ろくしやう)人誌